

学習指導案（コミュニケーション英語Ⅱ）

- 1 日 時 2019年11月8日（金）5限 13:15～14:05
 2 指導者 西川 かおり
 3 指導クラス 2年6組
 4 場 所 2年6組教室
 5 学 級 観

理系クラス。英語は得意科目ではないが、学習に対して前向きに取り組む生徒が増えてきている。1年次からペアワークの機会が多く設けるようにしていたが、論理的に意見を述べることについては改善の余地があった。与えられたテーマに関し、自分の意見を持つというところでつまづく生徒も多く、英検やGTECのスピーキングの問題や、教科書本文に関するライティングの活動を通し、学年として少しずつその力をつけている過程である。

- 6 科目／単元名 コミュニケーション英語Ⅱ
 Lesson 8 Working against the Clock
 7 使用教材 教科書 CROWN English CommunicationⅡ（三省堂）
 授業プリント・授業用スライド

8 単元の目標

対人地雷のもたらす悲劇と、その除去方法、さらに危険な地雷除去作業にロボットを投入することを考えた日本人学者たちについて学ぶ。読み進めながら地雷に関するデータを集め、そのデータに関して自分の意見を発する機会を section ごとに設けるなど、単元全体を通して論理的に意見を述べる力を伸ばすことに力を入れたい。また、生徒たちにとっては「地雷除去作業にロボットを導入する」という一見何の問題もないように思える方法が、実はアフガニスタンでは当初受け入れられなかったという事実を知る中で、アフガニスタン人と日本人学者それぞれの立場に立って意見を述べさせ、生徒の知識を深めたい。

9 指導計画

（単元全体を通して動画や資料などの authentic material を用い、理解の軸を絵や mapping sheet を用いた本文を読み込む前段階での retelling に置く。また、毎時間の最後に次のペアワークに必要なような、自宅での調べ学習等を含む課題を課し、主体的・対話的で深い学びを目指す。）

指導内容	配当時間
Section 1,2 対人地雷に関する基礎的な情報や、世界規模で行われている地雷廃絶の努力、そして日本人学者広瀬茂雄の地雷除去作業ロボットの開発について学ぶ。	3時間／ section
Section 3 広瀬が Titan IX を開発するまでの過程を理解する。	2時間
Section 3, Section 4 導入 ・Titan IX が現地で受け入れられなかった理由とその後の広瀬の解決策を理解する。 ・特定の立場（Afghan people/広瀬茂雄）に立ち、論理的に意見を述べる方法(既習)を意識しながら、自分の意見をまとめ、必要な情報を自分で集め、発表する。	2時間 (本時2時間目)
Section 4 問題点を解決するべく開発された Gryphon V と、広瀬以外にも地雷除去用のロボットを開発している日本人学者や企業の取り組みについて学ぶ。	3時間
まとめ 今までの活動や集めたデータを振り返り、対人地雷や地雷廃絶に向けての取り組みに関する自分の意見を書く。また、理系の進路を考えている生徒たちに向け、彼らの大学での学びや研究の発展性について触れたい。	1時間

10 本時の目標及び評価規準

(1) 目標

- ア ペア活動に積極的に取り組み、お互いの意見を交換したり、本文の内容を相手に伝えることができる。
 イ 論理的に意見を述べる方法を意識して、自分の意見を相手に伝えることができる。
 ウ 既習の表現を用い、本文の内容を相手に伝えることができる。

- エ 本文の大意を理解し、内容に関する質問に答えることができる。
 オ 論理的に意見を述べる方法を理解し、自分の言語活動に生かすことができる。

(2) 評価規準

①コミュニケーションへの関心・意欲・態度	②外国語表現の能力	③外国語理解の能力	④言語や文化についての知識、理解
<ul style="list-style-type: none"> ペア活動に積極的に取り組み、お互いの意見を交換したり、本文の内容を相手に伝えようとする姿勢がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 論理的に意見を述べる方法を意識して、自分の意見をまとめ、発表している。 既習の表現を用い、本文の内容を相手に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 本文の大意を理解し、内容に関する質問に答えることができている。 	<ul style="list-style-type: none"> 論理的に意見を述べる方法を理解し、自分の言語活動に生かしている。

1.1 本時の展開

時間	指導過程	生徒の学習活動	教師の活動 及び 指導上の留意点	主な 評価の観点	評価 方法
5分	Warming-up	<ul style="list-style-type: none"> 論理的に意見を述べる方法を意識しながら、Section 3に関する自分の意見や自分で調べてきたデータをペアで共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> 意識すべきフォーマットを確認する。 活動例を示す。 【主体的・対話的・深い学び】 	<ul style="list-style-type: none"> ペアで意欲的に会話をし、お互いの意見を交換しているか。(①) 	<ul style="list-style-type: none"> 活動の観察
20分	Catching the main points (review)	<ul style="list-style-type: none"> Titan IXが現地で受け入れられなかった理由と、その後の広瀬の解決策について概要を復習する。 キーワードと写真を用いてRetellingをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を明確にし、生徒が目標に向かって活動を進めていけるようにする。 スライドを用い、生徒が概要を理解した上でプレゼンテーションの準備に入れるようにする。 生徒から答えを引き出し、キーワードを確認する。 【主体的・対話的・深い学び】 	<ul style="list-style-type: none"> ペアと協力してワークシートの空欄が埋められているか。(②) 既習の表現を用い、本文の内容を相手に伝えているか。(①) 	<ul style="list-style-type: none"> 活動の観察
11分	Preparation	<ul style="list-style-type: none"> ペアに分かれ、お互いが調べてきた情報を発表用シートにまとめる。その際、聞き手の理解を助けるKey Words/Phraseを抜き出すことで、 	<ul style="list-style-type: none"> 活動の指示を出す。 生徒が論理的に意見を伝えることを意識しながら必要な情報をまとめられるように意識づ 	<ul style="list-style-type: none"> ペアと協力し、必要な情報をワークシートにまとめられているか。(②④) 	<ul style="list-style-type: none"> 活動の観察

		自分の思考を整理する。	けをする。 【主体的・対話的・深い学び】		
11分	Presentation	<ul style="list-style-type: none"> 論理的に意見を述べるためのフォーマットやジェスチャー・アイコンタクト等を利用し、特定の立場(Afghan people/広瀬茂雄)に立って意見を述べる。 聞き手は nodding や shadowing、表情等を意識して発表を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> 回を追って、生徒が発表者としても聞き手としてもブラッシュアップできるように指示する。 【主体的・対話的・深い学び】	<ul style="list-style-type: none"> 論理的に意見を述べる方法を意識して、自分の意見をまとめ、発表しているか。(①②④) 聞き手として発表に対して反応しながら聞くことができているか。(①) 	<ul style="list-style-type: none"> 活動の観察 課題(Writing)の確認(次時)
3分	Wrap-up		<ul style="list-style-type: none"> 次時に向けての課題の指示(Writing)と、本時に対する肯定的なコメントをすることで、次時に向けての生徒の動機づけをする。 【主体的・深い学び】		